

【J-PHRASE in 埼玉】
～ Janssen PH regional cooperating seminar ～

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、この度、添付案内状の如く、小児肺高血圧症における地域連携を深める目的として本講演会を開催する運びとなりました。

今回は、小児肺高血圧症に関して専門知識と経験が豊富な先生方をお招きし、医療連携をテーマとしたご講演をいただきます。ご多忙中の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

謹白

土井 庄三郎 先生（独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 院長）



以前「原発性肺高血圧」と呼ばれていた時代は、不治の病と考えられていました。「特発性肺動脈性肺高血圧」と名称が変更され、約 20 年間に多くの標的治療薬が開発され、患児の予後は著明に改善してきました。

しかし現在でも非特異的な症状のため見過ごされることも多く、専門病院に辿り着くまでにかなりの時間を要し、亡くなる患児も少なくありません。希少難病は早期発見と専門病院での早期治療が必須であり、そのためにはかかりつけ医 – 地域中核病院 – 専門病院の顔の見える相互の連携が重要です。1 人でも多くの患児と一緒に救いましょう！

住友 直方 先生（埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科 特任教授）

小林 俊樹 先生（埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科 教授 副診療部長）

星野 健司 先生（埼玉県立小児医療センター 循環器科 部長）

小島 拓朗 先生（埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科 准教授 診療部長）

前田 佳真 先生（川口市立医療センター 小児科 副部長）

共催：埼玉県小児科医会

ヤンセンファーマ株式会社 PH・NS・IDV 事業本部肺高血圧症部門

ストラテジックカスタマーパートナーシップ部リージョナルケアコーディネイトグループ



©Janssen Pharmaceutical K.K. 2022